

週報

2015年17号(4月19日～4月25日)

今年度宣教テーマ

「一人のために」(案)

ルカによる福音書15章1節～10節

< 巻頭言 >

『放蕩息子を喜ぶために』

ルカによる福音書15章11節～32節

放蕩息子のたとえ話は、そう呼ばれるところからもわかるように、主に放蕩息子にスポットライトが当てられます。しかし、後半に語られている兄と父との対話は、私たちに、大切なことを問いかけているように思います。

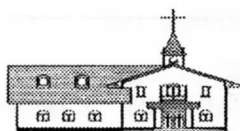
兄は、父が、帰ってきた弟のために、肥えた子牛を屠ってやったと聞いて、怒り始めます。そして、「私は、何年もお父さんに仕えてきた。言いつけに背いたこともない。それなのに…」と言うのです。この兄の訴えを、私たちはどう聞くのでしょうか。

兄に対して、父は「子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ」と答えています。この言葉が真実ならば、兄は、弟以上に、大きな恵みを受けていることになります。でも、兄は、そのことに気付けないのです。これまで受けてきた恵みを、兄は、「奴隷のように仕えてきた」「子山羊一匹すらくれたことがない」としか、表現できないのです。

恵みに気付けない、恵みを恵みとして受け取ることができない。これが、私たち人間の現実ではないのでしょうか。「お前はいつもわたしと一緒にいる」と、神様は仰ってくださいなのに、私たちはそのことに気付かず、孤独の中をさまよっているのです。

どうしたら気づくことができるのでしょうか。それは、わかりません。でも、ひとつ言えるのであれば、当たり前のことにはないということではないのでしょうか。どんな恵みも、当たり前になった瞬間に、恵みではなくなってしまうのです。当たり前にはない努力が大事なのではないのでしょうか。

(村田悦牧師)



教会創立 1950年8月7日(教会組織)

日本バプテスト連盟 大分キリスト教会

〒870-0045 大分市城崎町2丁目6番22号

Tel/ 097-532-4240 Fax/529-5240 牧師 村田 悦

http://blogs.yahoo.co.jp/oita_baptist_church

Mail:oitabap@violin.
ocn.ne.jp